

渓を教えてくれた翁と婆様

★兵庫県 但馬 岸田川
☆岸田川上流霧ヶ滝養魚場

「釣れたかあ〜？・・・釣れんたらあー！・・・
コーヒー入れたげるけえ〜上がって一休みしん
さい・・・」

爆音を立てて水が割裂ける落ち込みの前で一
生懸命ロッドを振るこの私に、轟音にも負けな
い大声で養魚池の脇からたまりかねて呼びかけ
る婆さん・・・

「小椋タマエ」・・・岸田川上流霧ヶ滝養魚場
を仕切る岸田川の主・・・

フライロッドを持ったばかりの私は行く度に
ケチョンケチョンに言われっぱなしだった。

無理もない・・・二十年以上前は言え、2,000-
の遊魚料と引き替えに2〜3匹のアマゴを放流
してもらい、それで全く釣れてないんだから・・・
いい加減イライラしてたんだった。

婆「あなたの立つてくまの間に魚がおるよ〜・・・
川ん中に入りすぎだがあ・・・だいたいニニは
町の釣り場の倍は入れくまの間に魚がおるよ〜・・・
出て「釣れん〜」言われたら困るのだがなあ
〜・・・」

私「・・・難しいわ・・・」

婆「そりゃあんだーそげな短い竿でえ川ん中バ
シャバシャ歩いてえ〜何もかもけつちらかし
てからほりこんでも魚は逃げておらん！それ
にその真つ赤でブツトイ系じゃ逃げにや〜魚
はおらん！その道具はなんだろうなあ〜・・・」

私「毛鉤・・・」

婆「つけえ・・・なんだあ〜・・・まだ虫が飛び時
期じゃなあ〜・・・そんなんじや余計に釣れ
ん・・・餌で釣りんしゃい・・・」

還暦をとつくに超えた婆さんが孫と言っても
おかしくない二十代前半の私にコンコンと諭し
てくれたが、こっちは全く気にしてない分、い
くら放流してもひとつも釣れない厄介な客がや
ってきた苛立ちで婆さんは、顔をしかめて立ち
上がった。

こっちへ来いと養魚池へ私を連れだし、刺身
用の立派なアマゴをすくい上げると、おそろく
お前の腕以前にその道具では今日一日釣れない、
お土産に持って帰れと言っ・・・だから町に出て
ココは釣れないなんて言わないでくれ・・・と
のこと・・・魚が欲しくて来てるんじやあない！
と、孫の様な私がこの道一筋の婆さんにとても
言える様な状況では無かった。

婆「こんだ来るときやあ〜・・・餌釣りでやりん
しゃい・・・もったあ〜なあ・・・(魚を)撒いて
損したあ〜・・・」

実際、この婆さんにはそれから色々教えても
らった。

渓魚の付き場は
ココ、魚はココに
居て、ココで食つ。
この時期ならココ、
この時間ならココ、
この水量ならココ、
この天気ならココ。
これ以上近づくと
魚から見える。横
に上手く回り込む
と以外と魚に悟ら
れない。・・・
等々・・・フライフ
ィッシング以前に
渓魚と渓流と言っ
釣り場の知識が皆
無であった私に、行く度にコンコンと叩き込ん
でくれた。



翁「何だらうなあ〜?」

婆「こんな、何じゃ言うつてもこれではか釣らん!・・・毛鉤だも・・・」

翁「こりやまあ短けえ〜竿だがある・・・」

婆「ようわからんがある・・・西洋流だとお〜」

翁「ほあ〜・・・」

と答えるのは小椋福夫翁、タマエ婆さんの親戚筋にあたる爺様・・・

「この爺様も孫に教える様に、アマゴならニ、イワナならニ、アマゴは捕食が早く見切るのも早い、イワナは油断できない。ハネ(ライズ)は日中はニ、夕方はニで起こる。と熱く語ってくれた。

翁「ニはアマゴしか撒いとらんけえ〜なあ、アマゴはよう(毛鉤を)はじくけえ〜イワナがエエ、竿が短いけえ〜溪に行け!・・・こん上の溪を少し上げればイワナが上がるう〜・・・」

華麗にキャストしてバッチリ釣りたいと考える私をお構いなしに溪の入口まで引っ張っていき・・・サあ上げれと見送った。

渋々溪に上がリダメだったら早々に引き返すつもりが、少し上がるとイワナが釣れ出した。全く釣れない私にとって、もうワクワクする様な状況だった。

数匹釣って嬉しくてたまらず、いそいそ切り上げて翁さんの所にもどる。

私「釣れた釣れた!」

翁「何匹釣った?」

私「これ!」

翁「何じゃあ〜・・・そんだけかあ〜ちいせいのう?・・・何処まで上がった?・・・何?・・・」

もつと奥へ行かんかあ・・・」

婆「こんな、そんだけ釣れたら、そりや大事だも・・・普段全然釣れとりやせんがねえ〜」

翁「こんな釣れたうちに入リやせんがある〜」

・・・それでも当時の私には充分だった。もう、記憶も薄らぐ昔の事となってしまった。



■岸田川上流霧ヶ滝養魚場の二案内

今ではこの岸田川上流霧ヶ滝養魚場はタマエ婆さんも先代となり、小椋福夫翁の息子さん夫婦(と言っても既に孫がおられるお年で、おじさん・おばさんと呼ばせて頂いているが・・・)が営んでおられ、毎年ヒマを見ては一度は訪れる様にしてる。

養魚もアマゴ一色だった先代とは異なり、イワナやヤマメが主流となっている。

今から思えば、頗る魚影の濃い放流釣り場で条件が良ければ30匹以上はドライで釣ることが出来る(条件が悪ければヒト桁だが・・・)。

ただ、本業は養殖業で、釣り場はただ前の川に魚を撒くだけ・・・当然、天然釣り場と殆ど変わらない。

岸田川沿いにどんどん上がると道路が川から分かれて峠に向かうところに養魚池があり、そこが霧ヶ滝養魚場・・・料金を払うとその前に放流して釣らせてくれる。

そこから1km程下流域も管轄内だが、もっぱら放流は養魚池前でそこから落ちた魚を拾うこととなる。



ただ、放流釣り場なのでよく釣れる事は当然ながら、それだけでは疎遠になりかねない。

しかし、非常に魚質が良いこと、林道から分かれた上流の深もニニの管轄になっていることから、割高の料金が守った天然釣り場となっており、常連のエキスパートは殆どニニが狙い・・・ライワナも夢ではない。

「最近、アンタのやつとるフライのお客さんが増えましたなあ〜・・・じゃが、はじめばかりのモンはよう飛ばさんけえ〜なあ〜・・・アンタの様に離れにやあ〜釣れんのに・・・あれで「釣れん〜」ちゅわれても困るがあ〜」とおじさん・・・

やっぱリニニは「良く釣れて喜んでもらえる釣り場であること」に代々拘り受け継がれて居る様だ。

2006年 3月